



じしゅう どうこうさん  
時宗 東岡山

# 福田寺だより



ホームページ



フェイスブック



Instagram

## 倶会一処

【彼岸施餓鬼法要：3月22日 午後2時より】

【写経会：3月27日 午後2時より】

ご参拝の際は、マスクの着用、体調確認のご協力をお願いします。

今年の春のお彼岸は17日～23日までの期間です。22日午後2時より恒例の彼岸施餓鬼法要を厳修いたしますのでどうぞご参加ください。

「彼岸」とは「さとりの世界・安らぎの世界」という意味で浄土を表します。お釈迦様の説かれた仏教の実践を通して迷いの世界から安らぎの世界へと至ることを目指します。また、ちょうど春分・秋分の時期に太陽が真西に沈むことから西方極楽浄土に思いをはせ、そこにおられる亡き方々、ご先祖様を供養する日ともされます。

極楽浄土の教主は阿弥陀仏です。「阿弥陀」とはサンスクリット語の「アミターバ(量りしれない光)」「アミターユス(量りしれない寿命)」という語からきています。極楽浄土に往生するということはこの量りしれないみ光、命に包まれるということです。しかも「南無阿弥陀仏」と阿弥陀様へ呼びかければ必ず往生を約束してくださるありがたい仏様です。

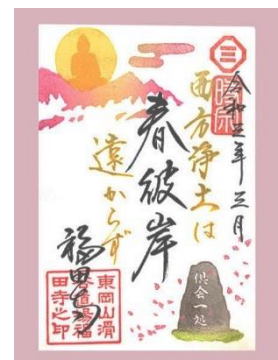
さて、阿弥陀仏と極楽浄土について書かれている経典『阿弥陀経』には「<sup>く</sup>会<sup>い</sup>一<sup>いっ</sup>処<sup>しょ</sup>」という言葉が出てきます。お念仏を唱えれば、この世で別れた人とも必ず<sup>とも</sup>俱<sup>とも</sup>に一つの<sup>ところ</sup>処、すなわち浄土にて再び会うことができるという教えです。亡くなられた方に会いたいという気持ちは誰しもが抱くものかと思えます。つい「もっと話しておけば、今話せたら……、でもどうすることもできない」と気が沈むこともあるかと思えます。“どうすることもできない”と考えればそれまでですが、“亡き人のためにお祈りすることができる、再会を願ってお念仏を唱えることができる”、と前向きに思う人を阿弥陀様は力強く支えてくださるのではないのでしょうか。私も先代の祖父を追慕するたびにこの「倶会一処」という言葉を思い出し、浄土で胸を張って再会し良い報告をするために精一杯努めようという思いになります。

一遍上人は法語の中で極楽浄土について次のような内容を語られています——『<sup>かんむりようじゆきよう</sup>観無量寿経』には「ここを去ること遠からず(去此不遠)」とあり、浄土教の祖師・善導大師は「西方遠しということなかれ、ただ十念の心もちいよ」と説かれている。つまり西方浄土が私たちの心から遠く離れた存在ではなく、名号を唱えればたちまちこの現世も浄土になるということである。——

自らの極楽往生、そして亡き方々との再会、ともに叶えてくださる「南無阿弥陀仏」のお名号が切に有難く思われます。 合掌



ジンチヨウゲ



三月限定御朱印